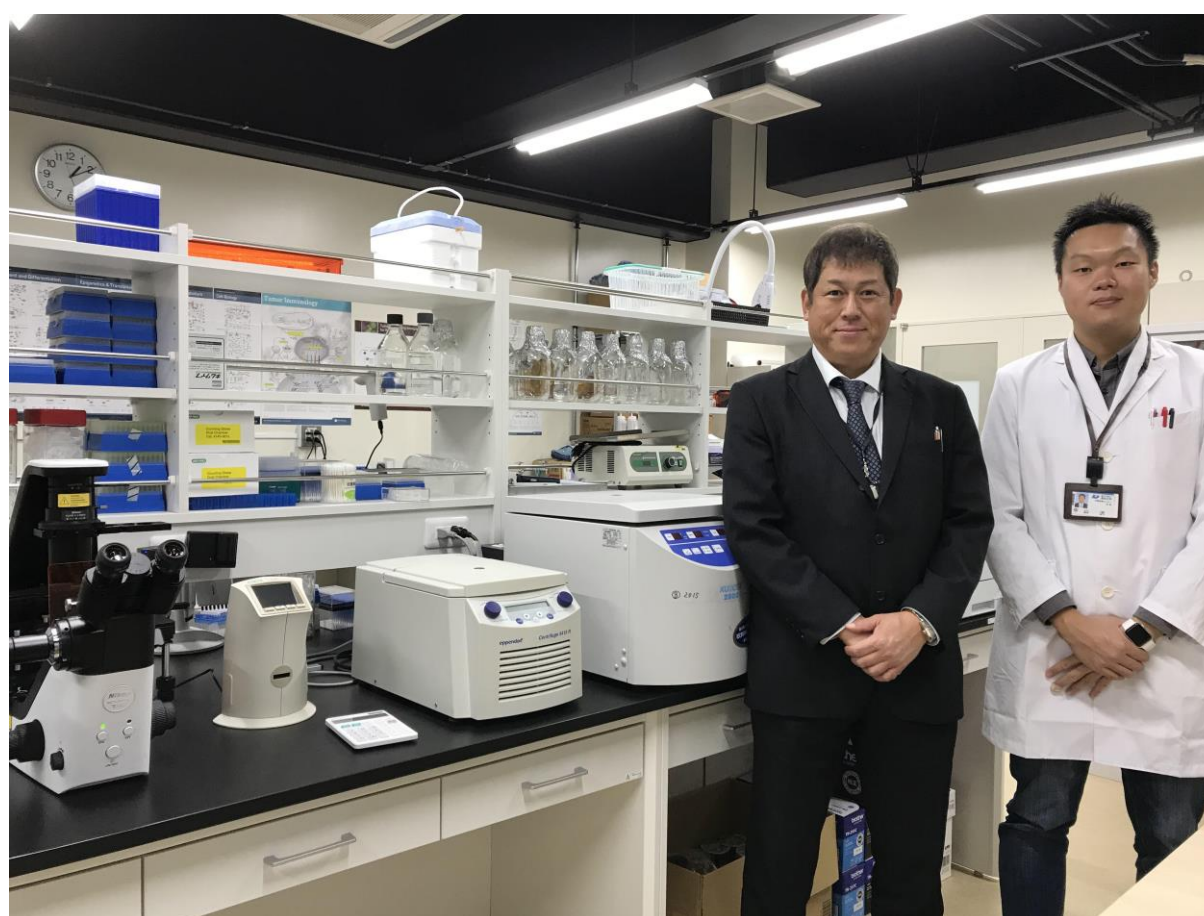


光線医療センター センター長 交代

4/1(水)、2017年4月1日、光線医療センターは、日本初の本格的な光線医療技術の開発、提供、普及を目指して、高知大学医学部附属病院のセンターとして発足しました。このたび、2020年4月1日、光線医療センターの開設より3年間、多大なるご尽力を頂きました初代センター長 花崎和弘先生がセンター長をご退任されることになりました。この本格的な光線医療技術を基盤とする日本初である本センターが、診療科横断的な組織であるが故の開設時のご苦労は元より、日本屈指の専門家の先生方を客員教授(光線医療センター顧問)として招聘し、センター専任研究員をも配属し、高知大学医学部附属病院の施設から医学部附属の高知大学公認の施設として昇格できましたのは、まさに花崎センター長のご尽力の賜物であります。さらには膀胱癌に対する光線力学診断(PDD)用 術中診断薬 5-アミノレブリン酸(5-ALA)の薬事承認を勝ち取り、アイルランド王立外科医学院(RCSI)バーレーン医科大学との国際学术交流を行い、数多くの基礎研究・臨床研究を実施し、その成果を学会発表・論文発表として発信し、共同研究に関する国際特許を出願できたことも、この3年間の大きく、そして確かな足跡として刻まれております。

そして、このたびの初代センター長 花崎和弘先生のご退任を受け、またご推挙を頂戴し、小生 井上啓史が、2代目光線医療センター長を拝命させて頂くことになりました。身に余る光栄であるとともに、身の引き締まる思いでございます。真に微力ではございますが、高知にしっかり芽生えた光線医療をより大きく育てあげるために、全身全霊取り組んでゆきたいと思っております。

これからの光線医療センターは、これまでの活動や事業を確実に踏襲するとともに、より一層の大学間連携および産学連携、さらには国際連携の拡充を図り、センター専任研究員 中山 沢先生を中心とし、さらには多くのセンター構成員の先生方のお力もお借りし、光線医療を軸とした学術研究および臨床開発の発展を目指したいと考えています。すなわち、光線医療に関わる、より斬新な知見を探求し、より有用な薬剤・技術を創生し、新たな高知ブランドの知と技を、高知県民、日本国民、さらには世界の人々の健康長寿のために役立てることで、形ある社会貢献を果たしてゆきたいと考えています。これからも、より大きく光り、より輝きを増す 光線医療センターにご期待ください！



光線医療センター ニュースレター

2020年 4月 30日 発行

発行責任者・編集責任者：井上 啓史

(高知大学医学部 光線医療センター センター長)

<https://www.kochi->

[ms.ac.jp/~hsptl/guidance/onespost/photodynamic.html](https://www.kochi-ms.ac.jp/~hsptl/guidance/onespost/photodynamic.html)